

学習支援・地域連携 ニーズに応える



グループくわ 第11回定期総会

NP0法人グループくわの第11回定期総会は、5月15日にカレッジホールで開かれ、25年度の事業報告と26年度の事業計画を承認し、理事長に堺汎氏を再任。新任の理事6人も選び、非常勤理事、監事を含め、計20人の新体制が発足、26年度の活動がスタートしました。総会后、功労会員に選ばれた会員3人と2団体の表彰式も行われました。
(8面に関連記事) (広報・永野 知己)

総会は増金スミ子さん(福11)の司会で午前10時に開会。堺理事長が「1年ぶりに懐かしいお顔を拝見でき、大変うれしい。総会出席ありがとうございます」と挨拶。来賓の藤本義兼シルバーカレッジ事務局長から「<再び学んで他のために>を文字通り実践されているみな様に心から敬意を表します。子どもたちの見



総会で事業報告をする堺理事長

守り・学習支援、東北支援など活動は多岐にわたり、大変心強い。地域をよくするには、行政だけでは、細かいところに目が届きません。みな様の力をお借りしたい」と祝辞を述べました。

続いて議長に加藤勇治氏(美工10)を選出。「出席者118、委任状659の計771で定足数661(会員総数1322人の2分の1以上)を上回っており、総会は成立」との報告があり、議事に移りました。

堺理事長は「25年度は、花実の森の里山活動を推進、小3対象の自然環境体験学習を進めた。伝統文化、戦争体験などの出前講座にも力を入れた。東北支援では7月に第4次チームを女川町、名取、仙台市に派遣し、仮設住宅や小学校を再訪、被災地との連帯・心の絆を深めた。長田区の地域人材支援センターにパソコン塾を開設、ゼロから学びたい人を支援した」と事業報告。決算報告とともに拍手で承認されました。

【平成26年度の新役員】

理事長	堺 汎	(園15)＝西
副理事長	小畑 浩昭	(国16)＝企画・北
副理事長	吉本 弘	(音17)＝総務・垂水
理事	北浦 俊明	(生16)＝財務・西
理事	井口 久美子	(福16)＝広報・長田
理事	田路 義弘	(生17)＝事業・須磨
理事	俵 貴志子	(生16)＝総務・中央
理事	山本 都子	(生17)＝財務・兵庫
理事新任	古後 健一	(福18)＝企画・西
理事新任	水町 亮治	(生18)＝総務・中央
理事新任	永野 知己	(生18)＝広報・須磨
理事新任	岡本 紘一	(生18)＝広報・垂水
理事	北村 洋	(生17)＝事業・北
理事新任	四方 久幸	(国18)＝事業・北
理事新任	内村 ナナ子	(国18)＝事業・中央
理事(非)	海野 龍英	(食16)＝垂水
理事(非)	土井 昭政	(国10)＝区会長・北
理事(非)	柳川瀬 淳一	(国13)＝部会長・須磨
監事	長谷川洸士(国11・北)	南形 徹(生14・北)

【区会長】東灘＝中谷 一郎(生15)

灘＝木下 完治(食10) 中央＝久保 正志(国14)
兵庫＝大掛 敏夫(生7) 北＝土井 昭政(国10)
長田＝藤田 忠之(福13) 須磨＝細野 恵久(福3)
垂水＝板野 武一(生16) 西＝水野 俊夫(国14)

【部会長】福祉＝加藤 勇治(美10)

国際＝柳川瀬 淳一(国13) 環境＝池田 八郎(生17)
文化＝重松 豊彦(国9) いきがい＝松井 康有(食15)
▽環境未来館責任者＝古川 孝友(生12)
▽須磨一ノ谷 プラザ責任者＝藤田 忠之(福13)
▽学習支援委員会 委員長＝西田 圭一(生9)

続いて新役員20人(別表)が拍手で承認され、堺理事長が26年度の事業計画を説明。「神戸市などから受託している、従来の神戸環境未来館、児童虐待電話相談、いじめ・体罰電話相談や自主事業の須磨一の谷プラザの管理業務を継続する。東北支援の第5次隊は7月に派

遣する。被災地のニーズも変わってきているので、実情に沿うようにしたい。昨年、テスト的に実施した須磨パティオでのお買いものサポーターを本格実施する。毎週木曜日に2人が張り付き、お年寄りらのお手伝い



第11回定期総会に出席、活動報告を熱心に聞く会員

をする」と述べました。

26年度の事業計画、事業予算を原案通り、拍手で承認、11時過ぎ議事を終了。このあと、部会長・区会長、環境未来館・一の谷プラザ責任者、学習支援委員長に選出された17人(別表)を紹介。東灘区会長、環境・文化・生きがいの各部会長が交代しました。

屋食休憩をはさんで12時40分からカレッジホールで「男はつらいよ」シリーズ最終作の「寅次郎 紅の花」を上演。寅次郎が阪神大震災後、長田でボランティアをしていた姿もあり、「これだけを見逃していたので、ありがたかった。寅さんには、いつも笑わされ、泣かされる」と相変わらずの人気でした。

〈わ〉の財政 厳しい状況続く

〈わ〉の予算規模は約3,900万円。2つの電話相談や環境未来館などの委託事業収入が8割弱を占め、残る2割強を福祉関係の助成金と年会費(200万円)などで補う形となっている。25年度の収支は、わずかな赤字となった。26年度は、新入会員が130人にとどまり、会員総数は昨年と同じく1,322人(4月10日現在)。助成金の枠も細ってきており、活動内容の見直しも求められるといった、財務的には厳しい状況が続く。

みなさまをサポート 新理事の抱負

◆古後 健一(企画) カレッジ入学直後、〈わ〉の事務所に飛びこみ、東北支援隊の一行に加えてもらったのが〈わ〉との出会いでした。地域では、子どもを

対象としたNPOや児童館での活動を続けていますが、昔あそびやマジックなどのクラブの貴重な経験がたいへん役に立っています。

◆水町 亮治(総務) 〈わ〉の活動について、殆ど無関心でしたが、1,300人を超す卒業生が入会、「再び学んで他のために」を实践され、部会・区会など様々なボランティアに参加して、活躍されていることに驚いています。無芸・無知ですが、会員の皆さんが明るく・楽しく活動出来る様に、裏方として少しでもお手伝い出来れば幸いです。

◆岡本 紘一(広報) カレッジで情報誌「爽風」の編集委員を3年間やった事が縁で〈わ〉の広報を担当させていただくことになりました。ぎやらりーわの他、ホームページも担当。みなさんの活動を早く、多く、判り易く、内外に知ら

せることをモットーに働きます。

◆永野 知己(広報) 新聞づくりは、どのページにどんな記事を書けるかの企画、記事取材、写真撮影、誌面のレイアウト、校正、印刷、発送と仕事は多岐に



屋食の弁当を取る会員

わたります。初めての人には難しい仕事です。でも、カメラ、文章など何かか得意な人はおられ、得意分野なら、楽しく、長続きます。

〈わ〉では「出来る仲間」を見つけ、息の長い活動を目指します。

◆四方 久幸(事業) 情報誌、学園祭実行委員会、「写真クラブ」、「ぴかぴか隊」「国際友の会」等々の経験を活かして〈わ〉の活動に貢献できるように頑張ります。多くのグループ、会員の多彩な、積極的な活動をサポートするのが私の役割です。

◆内村 ナナ子(事業) 自分のことよりも人様の事が気になる性分。第1、2、4次東北支援に参加しました。田んぼのガレキを片付けているとき、アルバムや帯、服が出てきて「日ごろの暮らしが、突然、奪われたんだ」と胸をつかれた。〈わ〉が地域に根差した活動を続けられるよう、微力ながら努力します。